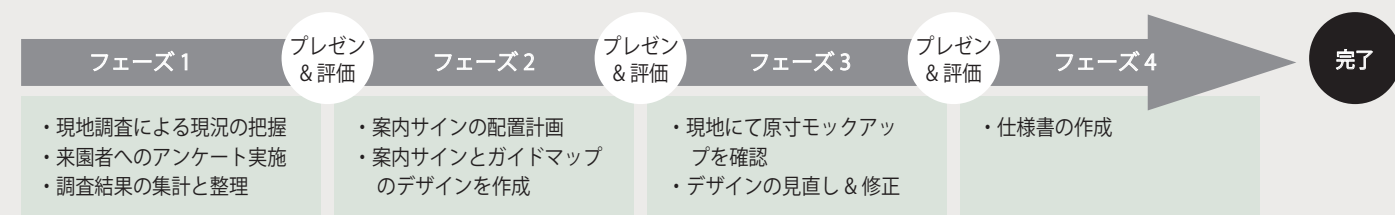


テーマ1：サイン配置の基本的な考え方（現状の把握方法と解決策についての考え方）

現在の千光寺公園には、案内サインやマップをはじめとした多くのサインが設置されていますが、各サインは表示内容やデザイン、配置等の一貫性や統一感が不足しています。

現状の把握方法としては、現地調査を実施しどこにどのようなサインが設置されているか、それによりどのような効果あるいは問題が生じているか、また所有者等について情報収集し、プロット図としてまとめます。また利用者へのアンケート調査を実施し、現状のサインの表示内容や不足している場所などの意見を集計し課題を発見・整理します。

解決策としては、上記作業をもとに現状の課題を明確にする作業を行い、各課題に対応したサインのデザイン案を作成します。原寸モックアップを現地に設置し、色やフォント、表示する情報量を周辺環境との確認作業を行いつつ、モックアップに対する市民へのヒアリングを実施し、実際の使い勝手を確認しながら設計を進めます。また、各段階で関係者と綿密に協議することにより、関係者との合意形成を図り公園内のデザインの統一と景観の調和を目指します。



テーマ2：誰にでもわかりやすく、景観や公園と調和した案内サインのデザイン

現況のサインは表示内容やデザイン、配置等の一貫性や統一感がないため利用者にわかりにくく、また集中して複数設置している場所もあるため、景観への配慮が必要な状況です。

誰にでもわかりやすい案内サインとするために、テーマカラーを設定し統一感を考慮したり、和・英文の2か国語表記を採用します。また、高低差が大きく急な坂道や階段が多いといった千光寺公園特有の性質に合わせ、車椅子やベビーカー利用者、高齢者に対する階段や段差などのバリアフリー情報や所要時間等を記載し、適切なルートで目的地へ至ることができるようにします。

現場にて原寸モックアップを設置し、俯瞰してサインを確認することで、わかりやすい表示内容、文字の大きさ、色味を決定するとともに、設置箇所や高さなどの配置を検討し景観や公園との調和を図ります。



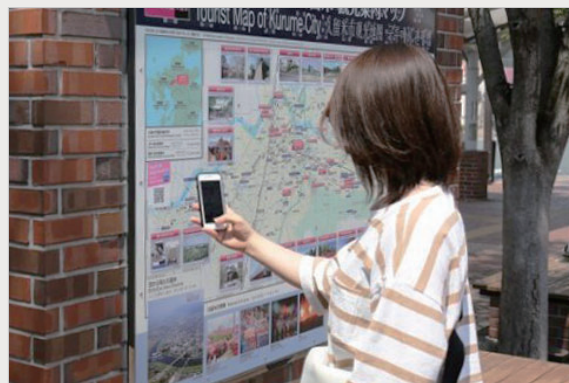
現在は様々なデザインのサインが混在し調和に欠けている



原寸モックアップを作成し、現地にて確認・調整する

テーマ3：案内サインとガイドマップとの連動性

公園内はわかりにくい道が多く迷いやすいため、案内サインに番号をふり、ガイドマップ上で自分がどこにいるのかが一目でわかるよう工夫するなど、なるべくシンプルな仕掛けで、且つオフラインの状況でも子どもから高齢の方まで、誰もが使いやすい仕組みづくりを目指します。一方でガイドマップを持っていない来訪者も想定し、案内サイン内に掲載したQRコードによりインターネット上のガイドマップを閲覧して自分がいる場所がわかる仕組みもつくります。



案内サインのQRコードよりマップのダウンロードが可能

設計の途中段階で現地にて実際の使い勝手を確認しながら検討を進めることで、この場所特有の細かな問題点を発見・体感しデザインに反映します。

また、案内サインとガイドマップは相互間で共通するテーマカラーを設定したり、フォントやピクトグラムを統一することで相互間の視認性を上げ、わかりやすいサイン情報を提供します。



ガイドマップをスマホで閲覧できる仕組み

テーマ4：誰にでもわかりやすいガイドマップのデザイン

山頂やその周辺を敷地とする千光寺公園は施設間の配置や距離だけでなく目的地までの高低差も重要な情報です。ガイドマップではカラーの濃淡などにより高低差の情報を表現することで、公園内のエリアイメージを明快に来訪者に印象づけ、利用しやすさに配慮します。

また、車椅子やベビーカー利用者によるアクセスのしやすさを考慮し、ガイドマップには急傾斜の場所や階段や段差、エレベーターの有無などのバリアフリー情報を掲載することで、目的地までのルートを明確にします。



(例) 地形や最適なルートが一目でわかるマップを作成

■ 記載するバリアフリー情報の例（ロープウェイ山麓駅から尾道市立美術館へのルート）

